



明治後期の小兵人気力士 藤見嶽 虎之助 (1878~1923)



小さな力士が大きな力士を破る一番には格別なものがあります。その小兵力士として、明治時代後期に活躍したのが、郷土出身の藤見嶽でした。

明治11年(1878年)6月18日、神田久太郎・ヨウの長男として旧岳下村成田字柵橋(現・本町)に出生、久助と命名されました。幼少の頃から相撲が大の得意だったといえます。

同28年(1895年)に力士への夢を抱き藤島部屋に入門。当時藤島部屋には稽古場がなく、出稽古として近くの尾車部屋に通いました。余りにも小柄で貧弱な久助の体格を見た尾車は、将来性なしの面持ちだったといえます。

しかし、稽古を進んでかってでたのが、のちの名大関・荒岩。厳しくも情愛に満ちた稽古と、久助の天性の機敏さ、東北人特有の粘り強さ、人一倍の負けん気が功を奏し、早くも同年5月の番付けで西序ノ口十八枚目に「藤見嶽」の名が張り出されたのです。

この四股名は師匠藤島の一字と、故郷の秀峰安達太良山の愛称「嶽山」を偲ぶ意味を合わせて付けました。また、新入幕時に虎之助と改名したのは、寅年生れに由来したといわれています。

その後順調に位を上げ、同37年(1904年)に待望の新入幕を果たしました。

史上最小といわれる、身長165センチ、体重71キロの藤見嶽は、大きな相手を再三土俵にはわせました。特に、横綱大砲との一番では身長差30センチ・体重差60キロがありながら、堂々の引分けを演じ大喝采を浴びると共に、人気力士のひとりに数えられました。(当時は勝・負のほか、預かり・引分けがあった)

藤見嶽の取り口について、大関・初代朝潮は「力士の中でも藤見嶽くらい相撲上手な者はいない。相撲具合の良いこと、出足といい逃足といい、おまけに柔らか身などは言い様がないほど巧い。」と称賛したといわれています。

最高位は西前頭三枚目。小兵ながらも大きな力士に敢闘し、その技能の取り口は角界にその名を残しています。同43年(1910年)引退後は、年寄藤島を継ぎ後進の指導に尽力しました。

大正12年(1923年)7月15日、風邪がもとで胸を冒され、45歳の若さで逝去。現在、安達太良山が眺望できる市海道共同墓地に眠っています。



二本松ふるさと人物史
二本松市ウェブサイト

二本松警察署からのお知らせ

犯罪発生状況(令和5年1月~6月)

	二本松地区	安達地区	岩代地区	東和地区	不明等	合計	前年対比
侵入盗	空き巣 出店荒し その他	1 3 6	2			3 5 6	2 5 -2
非侵入盗	万引き 車上ねらい その他	6 10 14(1)	1 4(2)	3(1)		1 23(4)	9 14
自転車盗	3(1)	6(3)				9(4)	9
器物損壊	2	1				3	
住居侵入				1(1)		1(1)	1
その他	17(2)	4	1		2	24(2)	10
合計	50(4)	27(3)	8(2)	4(2)	2	91(11)	48
前年対比	28	13	5		2	48	

※()は6月の発生件数



地域で子供の見守りを!!
日常生活の中、気軽にできる「ながら見守り」活動の協力をお願いします。



「振り込まない」「渡さない」「送らない」

身に覚えのない金銭を要求する電話はまず「詐欺」を疑い、対応しない事!!



電子マネーを買って、大至急送って!

登録料金の未納が発生しています、本日に連絡を...

警察官や銀行員を装って、「お金が引き出せなくなるキャッシュカードを預かる」に行く...

POLICEメールふくしま

登録専用アドレス(QRコード、または pmf01@uh28.asp.cuenote.jp) に空メールを送信してください。



二本松警察署電話 23-1212